

九条だより

第188号

北広島九条の会 2023・08・01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

8月 「戦争遺跡をめぐるツアー」のお知らせ

8月11日(金・山の日祝日)

出発 午前9時 帰着 午後0時半

集合 午前8時45分 団地住民センター

市の福祉バスを利用します。

参加費 300円 (資料代、保険料含む)

高校生以下無料。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

“抑止力”で戦争は防げない、憲法9条による対話と外交こそが今必要です。

岸田政権の暴走を止める共同の運動を。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

“悪法がつぎつぎ” 異常な国会が終了

「マイナンバー健康保険証」は直ちに中止。

いま全国各地でマイナンバーカードと健康保険証を一体化させるシステムに“他人になり代わる”という不具合が生じ、政府の信頼が失墜している状況が出ています。これでは安心して病院にかかれなると不安が広がっています。

「軍事費拡大財源法」は「防衛力強化資金」という枠組みを作り、5年間で43兆円もの軍事費の財源を生み出すものですが、いまだその財源の見通しがたっていません。また LGBTQ の方の理解増進法は、当事者の人たちから「逆に差別を増進させる」と批判を浴びる始末です。支持率が下がる岸田首相はさらに NATO 首脳会議に参加しましたが、これは軍事同盟です。日本が戦争に巻き込まれていきかねない国民の不安は増すばかりです。

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

「まなび座」からののお知らせ (事前にテキストをお求めください。)

8月26日(土) 午前10時～正午 広葉交流センター

<テキスト>『ゼロからの「資本論」』 斎藤幸平著 NHK出版新書
どなたでもご自由に参加できます。直接会場にお越しください。

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

盧溝橋事件 86 年 「第 38 回 7. 7 平和集会」

盧溝橋事件が勃発した1937(昭和12)年7月7日、毎年この日に札幌市で「戦争と平和～私たちが学び、次世代に伝えるために～」をテーマに平和集会在開かれてきました。当九条の会はこの集会の実行委員会に参加してきました。

今年で 38 回目となり、この集會に参加された吉田彰さんから感想が寄せられました。

集會の講師は飯塚正樹さん。飯塚さんは、現在江別高校定時制に社会科教師として勤務し、北海道高等学校教職員組合の副委員長です。『今こそ憲法学習を基礎に政治教育、歴史教育を』と題して講演されました。

飯塚さんは簡単な自己紹介の後、定時制 4 年間の授業を通して世界や日本の歴史と現在の課題を「平和」「人権」の視点から学び、「国際化の時代に生きる市民・主権者としての知識や考え方を身に付ける」ことを目指してきたというところからお話が始まりました。

憲法学習を基礎とした政治教育・歴史教育の重要性をあらためて意識するようになったのは、2016 年度から選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたことだったそうです。その際、「主権者教育」が強調されるようになり、高校生全員に総務省が作成した冊子が配布されました。その内容に不安や疑問を感じたそうです。あらためて「日本国憲法」を精読し、憲法学習を基礎とした「主権者教育」を自分なりに組み立ててみようと考えたそうです。それも、日々の授業だけでなく、総合学習や見学旅行などの行事、防災教育などあらゆる教育活動を総合的に組み立てていこうと考えたそうです。

そこから、安保法制や憲法 9 条、同時多発テロやイラク戦争そして安保三文書の閣議決定についてなど多岐にわたってお話されました。授業や様々な活動での生徒の取り組み、反応、感想などのお話を伺いました。

1 時間余りのお話の後、質疑の時間がありましたがその回答を含めて、飯塚さんがおっしゃりたかったのは、当事者としての主権者を如何に育てていくかということだったと思います。選挙権の行使だけが有権者ではありません。当事者として考え行動する市民を育てることが「主権者教育」なのだと思いました。その際大切なのは、「教える」というよりも「ともに学びともに考える」ことだと思いました。そうすることで、生徒の意見はしばしば変わるけれども次第に自分の中に軸のようなものができると話されていました。

また「労働」や「権利」についても言及されるなかで、学校現場の勤務状況を見てみると、教員自身が「権利」というものをきちんと理解していないのではないかと感じることもあるとおっしゃっていました。「主権者」として問われているのは、若者というよりも私たち自身ではないかと思ひながらお話を伺っていました。

吉田 彰

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇